

川のシンポジウムにご参加いただいた方からアンケートを通していただいた質問を下記にまとめました。
ご質問、ご回答ありがとうございました。



早稲田大学本庄高等学院河川研究班への質問

少し質問と異なるかもしれませんが、発表していただいた皆様がその研究で一番大切にしていることがなんだったのか、聞いてみたかったです。

川と藤田小とともに歩んだ10年の時の発表で、2021年の生物図鑑の中がどんなのか具体的に教えて欲しいです。

上の質問への回答

研究を通して河川環境の現状を知ること（例えば、「エビのオスメス比と環境ホルモンの関係」の研究であれば、エビのオスメス比を通して、川の環境ホルモン濃度を知ることができる）。研究結果は「こんな感じ」ではなく、必ず数値で客観化できるようにすること。

下の質問への回答

生物図鑑は近いうちにWeb上にアップする予定です。そうすると自由にダウンロードできます。

藤田小学校への質問

少し質問と異なるかもしれませんが、発表していただいた皆様がその研究で一番大切にしていることがなんだったのか、聞いてみたかったです。

- ・相手が分かるように伝える。（発表）
- ・ごみ拾いをしたら、きれいになったから、一人一人の心がけが大切。
- ・一人一人が環境を守ることが大切。
- ・半田先生の話からヒントを得て、活動に生かしていくことが大切。

◎活動から子どもたちが自分の生活を振り返ったり、身近な環境へ関心が持てるようになっていたり、この活動を通してさらに地域を愛する心が育ってくれれば嬉しく思います。

玉川小への質問

少し質問と異なるかもしれませんが、発表していただいた皆様がその研究で一番大切にしていることがなんだったのか、聞いてみたかったです。

本年度、本校が川学習で大切にすることは、「環境保護について子ども達が自分で考え、行動する」ことです。子ども達にも、そのことをキーワードとして伝え、学習を進めてきました。本校の川学習「自然を守ろう！鳴川・諏訪川調査隊」では、学習全体の流れは例年と大きく変わりませんが、大きな違いは、教師は常に「じゃあ、どうする？」と問いかけ、子ども達は「じゃあ、どうすればいいだろうか？」という視点で考えるようにしたこと。その結果、子ども達自身も「自分で調べてみたい、やってみよう」という思いを持ち始め、家庭排水を減らす取り組みや発信、またはゴミ拾いなどに進んで取り組むようになってきました。また、子ども達の発表に「5校合同川サミット」の内容がありましたが、昨年度までは子ども達が調べたことを模造紙などにまとめ、ポスターセッション形式で発表するものでした。しかし、せっかく5校で集まる機会ですので、本年度は出し合って終わりではなく、「じゃあ、これからどうするか」を考えさせたいと思いました。本校の子ども達にそのことを伝えたとこ、「ぜひやってみよう！」と多くの子ども達がやる気をだしました。そこから、5校のみならずアイデアを出し合う会にしたいという子ども達のことを尊重し、サミットの方向性について大きく舵を切り替えたところ。サミットを通して子ども達自身で話し合って決めた「共通するキャッチフレーズをのせたポスターを作成し、発信する」という取り組みですが、「小さな努力で未来は変わる」K・U・K（川・海・環境保護）プロジェクトも5校の子ども達がたくさんのキャッチフレーズを作って応募し、インターネット投票でみんなで決めたものです。従来のような「させられ感」はなく、子ども達が主体的に学ぶようになってきています。

金澤先生への質問

金澤先生へ質問です。スナヤツメは砂利の間において非常に見つけにくいとおっしゃっていましたが、どうやって見つけたのですか？

少し質問と異なるかもしれませんが、発表していただいた皆様がその研究で一番大切にしていることがなんだったのか、聞いてみたかったです。

川の中の砂利を採集して、その中で見つけます。